

平成23年4月28日（木）

平成23年3月期 決算概要

株式会社 カネカ

もっと、驚く、みらいへ。

KANEKA

1. 業績概要 （平成 23 年 3 月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 2 参照）

（単位：億円）

	22年3月期	23年3月期	増減額	前回発表 通期予想
売上高	4,125	4,538	413	4,500
営業利益	175	212	37	230
経常利益	163	210	46	210
当期純利益	84	116	32	110
為替レート（円/US\$）	92.89円	85.73円		
為替レート（円/EUR）	131.18円	113.12円		
国産ナフサ（円/KL）	41,000円	47,600円		

- ◎ 売上高は前連結会計年度に対して 413 億円・10.0%の増収となりました。
- ◎ 利益は前連結会計年度に対して営業利益で 37 億円・21.3%、経常利益で 46 億円・28.4%、当期純利益で 32 億円・38.3%の、それぞれ増益となりました。
- ◎ 為替は対ドル、ユーロともに円高となり、前連結会計年度に対して売上高で△127 億円、営業利益で△43 億円の影響がありました。

2. 事業セグメント別売上高・営業利益の状況

(平成23年3月期 決算短信 【添付資料】P. 23 参照)

(単位：百万円)

	売上高			営業利益		
	22年3月期	23年3月期	増減額	22年3月期	23年3月期	増減額
化成品	79,550	85,467	5,916	1,923	2,763	840
機能性樹脂	61,136	69,992	8,856	9,040	8,296	△743
発泡樹脂製品	54,365	58,630	4,265	5,149	6,229	1,080
食品	119,781	123,781	4,000	8,883	7,960	△923
ライフサイエンス	39,187	47,517	8,330	4,544	9,279	4,734
エレクトロニクス	36,475	41,225	4,750	△6,698	△5,815	883
合成繊維、その他	21,993	27,211	5,217	1,444	787	△657
調整額	—	—	—	△6,782	△8,267	△1,484
計	412,490	453,826	41,335	17,505	21,235	3,729

※23年3月期第1四半期より、全社費用の配賦方法等、一部を見直しており、前連結会計年度はこれらの見直しに従って数値を組み替えております。

◎ 売上高は7セグメント全てが増収となりました。営業利益では化成品、発泡樹脂製品、ライフサイエンス、エレクトロニクスの4セグメントが増益ないし営業損失が減少、それ以外の3セグメントは減益となりました。

◎ 当期の事業セグメント別の状況は以下の通りです。

・ 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、国内及びアジア市場の需要回復を背景に販売数量が堅調に推移し、輸出市況の改善に加え原燃料価格上昇に対応した販売価格の修正にも注力しました。か性ソーダは、国内市況・海外市況ともに低調に推移しました。塩ビ系特殊樹脂は、国内及びアジア市場の販売数量が増加するとともに、販売価格の修正に加えコストダウン等も寄与しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は85,467百万円と前連結会計年度と比べ5,916百万円(7.4%増)の増収となり、営業利益は2,763百万円と前連結会計年度と比べ840百万円(43.7%増)の増益となりました。

- ・ **機能性樹脂事業**

モディファイヤーは、アジア及び欧米市場の需要回復により販売数量が増加し、製品差別化力の向上及びコストダウンにも努めましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を強く受け、増収ながら減益となりました。変成シリコンポリマーは、日本の需要回復と欧米市場の需要拡大により販売数量が増加しましたが、原燃料価格の上昇及び円高の影響を吸収しきれず、増収ながら減益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は 69,992 百万円と前連結会計年度と比べ 8,856 百万円(14.5%増)の増収となりましたが、営業利益は 8,296 百万円と前連結会計年度と比べ 743 百万円(8.2%減)の減益となりました。

- ・ **発泡樹脂製品事業**

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産用途の需要が低調に推移しましたが、原燃料価格の上昇に対応して販売価格の修正を図るとともに、製造コストダウンや経費削減に徹底して取り組みました。押出發泡ポリスチレンボードは、住宅着工の回復や住宅版エコポイントの導入を背景とした国内の断熱建材用途の需要拡大により販売数量が増加しました。ビーズ法発泡ポリオレフィン は、アジア及び欧州市場の販売数量が増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は 58,630 百万円と前連結会計年度と比べ 4,265 百万円(7.8%増)の増収となり、営業利益は 6,229 百万円と前連結会計年度と比べ 1,080 百万円(21.0%増)の増益となりました。

- ・ **食品事業**

食品は、消費者の節約・低価格志向を背景として需要が伸び悩む中で、新製品拡販などにより販売数量が増加し、コストダウン等による収益確保にも注力したものの、競争激化に伴う販売価格の下落と原燃料価格の上昇の影響を受けました。以上の結果、当セグメントの売上高は 123,781 百万円と前連結会計年度と比べ 4,000 百万円(3.3%増)の増収となりましたが、営業利益は 7,960 百万円と前連結会計年度と比べ 923 百万円(10.4%減)の減益となりました。

- ・ **ライフサイエンス事業**

医療機器は、インターベンション事業の販売が順調に拡大し、増収増益となりました。医薬バルク・中間体は、海外向けの販売数量が増加し、増収増益となりました。機能性食品素材は、既存製品の販売数量が前期を下回ったものの、高機能品の販売数量が米国市場を中心に着実に増加し、コストダウンも寄与して増収増益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は 47,517 百万円と前連結会計年度と比べ 8,330 百万円(21.3%増)の増収となり、営業利益は 9,279 百万円と前連結会計年度と比べ 4,734 百万円(104.2%増)の大幅な増益となりました。

・ **エレクトロニクス事業**

液晶関連製品は、販売数量が前期並みとなりましたが、超耐熱性ポリイミドフィルムは、多機能携帯電話用途などの需要拡大に伴い販売数量が増加しました。太陽電池は、欧州市場では競争の激化に伴う販売価格下落の影響を受け、販売数量も前期を下回りましたが、国内市場向けの販売数量は着実に増加し、アジア向け輸出も増加しました。以上の結果、当セグメントの売上高は41,225百万円と前連結会計年度と比べ4,750百万円（13.0%増）の増収となり、営業損失は5,815百万円と前連結会計年度と比べ883百万円縮小しました。

・ **合成繊維、その他事業**

合成繊維は、海外需要の拡大により販売数量が増加し、高付加価値品の増販やコストダウンによる収益確保に努めましたが、円高及び原燃料価格の上昇の影響を強く受けました。また、その他事業は、減収ながら増益となりました。以上の結果、当セグメントの売上高は27,211百万円と前連結会計年度と比べ5,217百万円（23.7%増）の増収となりましたが、営業利益は787百万円と前連結会計年度と比べ657百万円（45.5%減）の減益となりました。

3. 海外売上高の状況（平成23年3月期 決算短信【添付資料】P. 4参照）

（単位：億円）

	22年3月期	23年3月期	増減額	増減率
アジア	599	692	93	+15.5%
北米	245	291	46	+18.9%
欧州	369	450	81	+22.1%
その他	150	174	24	+15.8%
海外売上高計 （海外売上高比率）	1,364 (33.1%)	1,608 (35.4%)	245	+17.9%

- ◎ 海外売上高は、アジア及び欧州・北米の経済回復をベースに、輸出並びに海外子会社の売上高がともに増加し、1,608億円と前連結会計年度に比べて17.9%増となりました。なお、海外売上高比率は35.4%となり、前連結会計年度の33.1%を上回りました。

4. 連結貸借対照表 (平成 23 年 3 月期 決算短信【添付資料】P. 9・10 参照)

(単位：億円)

		22年3月期末	23年3月期末	増減額
資産	流動資産	2,081	2,224	143
	固定資産等	2,247	2,327	80
	合計	4,329	4,551	223
負債	有利子負債	636	666	30
	その他	1,121	1,267	146
	合計	1,757	1,933	176
純資産	自己資本	2,494	2,521	27
	少数株主持分 他	78	97	19
	合計	2,572	2,618	47
負債、純資産 合計		4,329	4,551	223
D/Eレシオ		0.25	0.26	

※自己資本：純資産から少数株主持分と新株予約権を除外したもの

- ◎ 総資産は、売掛債権等の運転資産の増加や、子会社の新規連結に伴うのれんの増加等により、前連結会計年度末に比べて 223 億円増の 4,551 億円となりました。
- ◎ 有利子負債残高は、30 億円増加し 666 億円となりました。
- ◎ 純資産は、利益剰余金の増加と為替換算調整勘定の減少等により、前連結会計年度末に対し 47 億円増の 2,618 億円となりました。

5. 連結キャッシュ・フロー計算書（平成 23 年 3 月期 決算短信【添付資料】P. 16・17 参照）

（単位：億円）

	22年3月期	23年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	574	349	△ 225
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 256	△ 349	△ 93
フリー・キャッシュ・フロー	318	△ 0	△ 318
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 168	△ 43	125
現金及び現金同等物の増減 （含 換算差額）	152	△ 35	△ 187
現金及び現金同等物の期末残高	405	370	△ 35

- ◎ 営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益や減価償却費等により 349 億円の資金の増加、投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得や子会社株式の取得による支出等により 349 億円の資金の減少、財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金支払等により 43 億円の資金の減少となりました。この結果、現金及び現金同等物の当連結会計年度末残高は、370 億円となりました。

6. 業績予想 (平成 23 年 3 月期 決算短信 サマリー情報、【添付資料】P. 5 参照)

(単位：億円)

	23年3月期実績		24年3月期予想		前年比(通期)	
	上期	通期	上期	通期	増減額	増減率
売上高	2,243	4,538	2,300	5,000	462	+10.2%
営業利益	104	212	90	250	38	+17.7%
経常利益	108	210	85	235	25	+12.0%
当期純利益	63	116	45	130	14	+11.8%

- ◎ 今後の世界経済は、米欧など先進国や中国・新興国の景気動向、日本の震災影響など、不透明感が強く、事業環境も先行きが見通し難い情勢にあります。このような経営環境下、当社グループは、事業構造の変革に向けた取り組みをさらに加速させ、収益体質の強化に注力する所存であります。
- ◎ 為替は 85 円/US\$、115 円/EUR、国産ナフサ価格¥60,000/KL と想定しています。

以 上

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。